英文法 L01 第 28 講 to 不定詞の名詞用法

学習目標

to 不定詞のまとまりが名詞の働きをする位置を、主語・目的語・補語に分けて識別できる。また、形式主語 It と、文の後ろに置かれた to 不定詞のまとまりとの関係を説明できる。

1. to 不定詞の形と名詞用法

to 不定詞の名詞用法

to 不定詞は、原則として「to ＋ 動詞の原形」で作る。名詞用法では、「〜すること」という意味を表し、文の中で名詞と同じような働きをする。

たとえば、to read books は「本を読むこと」というまとまりになる。read は「読む」という動作を表す動詞であり、books はその動作の対象である。このまとまり全体が、文の主語・目的語・補語になる。

ここで大切なのは、**名詞の働きをするのは to の後ろの単語だけではなく、to 不定詞のまとまり全体**だという点である。

to の直後に置くのは動詞の原形であり、名詞ではない。また、to 不定詞になっても「読む」「走る」「学ぶ」といった動作の意味は失われない。その動作を「〜すること」という内容として表し、文の一部に組み込むのである。

2. 主語・目的語・補語になる to 不定詞

名詞用法の to 不定詞は、文の中で主に次の 3 つの位置に現れる。

働き	文の中での位置	判断の手がかり
主語（S）	文の主語になる位置	「何をすることが〜なのか」を表す
目的語（O）	want などの動詞の後ろ	「何をしたいのか」など、動詞が表す内容を補う
補語（C）	be 動詞の後ろ	主語が表す内容を説明する

主語になる場合

Pair 1

To read books is fun.

本を読むことは楽しい。
この文の主語は To read books 全体である。「何が楽しいのか」を考えると、「本を読むこと」が答えになる。

To だけが主語なのでも、books だけが主語なのでもない。**To read books という動作のまとまり全体**が主語として働いている。

目的語になる場合

Pair 1

I want to read books.

私は本を読みたい。
want は「〜したい」という意味を表す動詞である。この文では、to read books が「何をしたいのか」という内容を表し、want の目的語として働く。

I が主語、want が動詞、to read books 全体が目的語である。read の目的語である books も、to 不定詞のまとまりの中に含まれている。

補語になる場合

Pair 1

My hobby is to read books.

私の趣味は本を読むことだ。
この文では、My hobby が主語、is が be 動詞であり、to read books が補語として働く。

補語とは、主語などが表すものの性質や内容を説明する語句である。この文では、to read books が「私の趣味」の具体的な内容を示している。

---

be 動詞の後ろにある to 不定詞

be 動詞の後ろに to 不定詞があるからといって、進行形になるわけではない。進行形の基本形は「be 動詞＋動詞の ing 形」である。

My hobby is to read books.では、is の後ろの to read books が主語の内容を説明している。動作の進行を表しているのではない。

---

3. 形式主語 It と後ろに置く to 不定詞

to 不定詞のまとまりが主語になると、文の最初に長い語句が置かれることがある。英語では、その内容を後ろに置き、文頭に It を置く形もよく使う。

Pair 1

It is fun to read books.

本を読むことは楽しい。
この文の It は、特定の本や物などを指す代名詞ではない。**主語の位置を仮に埋める形式主語**である。

一方、to read books は「本を読むこと」という、実際に文が述べている内容を表す。このため、後ろの to 不定詞のまとまりを**真主語**と呼ぶ。

To read books is fun.と It is fun to read books.は、どちらも「本を読むことは楽しい」という内容を表す。違うのは、to 不定詞のまとまりを置く位置である。

文頭に to 不定詞を置く形	形式主語 It を置く形
To read books is fun.	It is fun to read books.
To read books が主語	It が形式主語、to read books が真主語

この形を読むときは、最初の It を「それ」と訳すのではなく、後ろの to 不定詞が何を表しているかを確認する。

to 不定詞のまとまりと 4 つの文

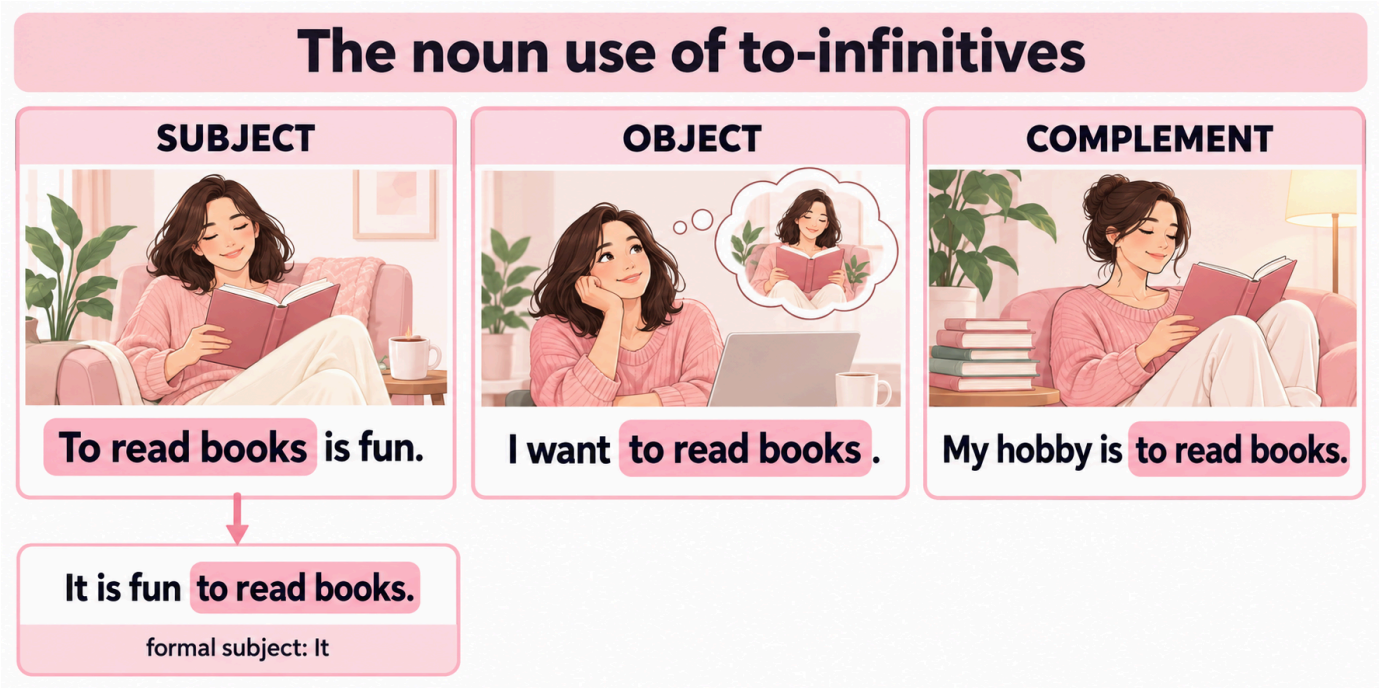


図 1　to 不定詞のまとまりと文の中での役割

図のタイトル The noun use of to-infinitives は「to 不定詞の名詞用法」という意味である。SUBJECT は「主語」、OBJECT は「目的語」、COMPLEMENT は「補語」を表す。また、formal subject: It は「形式主語の It」という意味である。

図では、同じ to read books というまとまりが、主語・目的語・補語として異なる位置に置かれている。形式主語の文では It が文頭に置かれるが、to read books は引き続き「本を読むこと」という内容を表している。

名詞用法を見分ける手順

まず「to＋動詞の原形」を見つけ、動詞の目的語なども含めて to 不定詞のまとまりを捉える。

次に、そのまとまりが文のどこにあるかを調べる。文の主語になっていれば主語、want などの目的語になっていれば目的語、be 動詞の後ろで主語の内容を説明していれば補語である。

文頭に形式主語 It がある場合は、後ろの to 不定詞が文の実際の主語となる内容を表していないか確認する。

©ミライコーチング

例題

1

次の英文を、to 不定詞の名詞用法を使って完成させるとき、空所に入る最も適切なものを一つ選べ。

I want (　) with my friend.

A. to plays chess

B. to play chess

C. to playing chess

D. to played chess

解答・解説

正解：B

まず、空所の前にある want に注目する。want は、何をしたいのかという内容を後ろに置くことができる。ここでは「チェスをすること」を表す to 不定詞のまとまりが必要である。

to 不定詞の形は「to＋動詞の原形」なので、play を使う B が正しい。

Pair 1

I want to play chess with my friend.

私は友達とチェスをしたい。
この文では、I が主語、want が動詞、to play chess with my friend 全体が目的語として働く。with my friend は「友達と」という意味を付け加えている。

A. to plays chess は誤り。plays は三人称単数現在形であり、to の直後に必要な動詞の原形ではない。

B. to play chess が正しい。play は原形で、後ろの with my friend と合わせたまとまり全体が want の目的語になる。

C. to playing chess は誤り。playing は ing 形であり、この to 不定詞の形には合わない。

D. to played chess は誤り。played は過去形・過去分詞形であり、to の直後に置く原形ではない。

©ミライコーチング

2

次の英文を、形式主語 It を使った文として完成させるとき、空所に入る最も適切なものを一つ選べ。

(　) is fun to read stories aloud.

A. This

B. There

C. It

D. They

解答・解説

正解：C

この文では、to read stories aloud が「物語を声に出して読むこと」を表す。何が楽しいのかを示しているのは、この to 不定詞のまとまりである。

その内容を後ろに置き、文頭に形式主語 It を置くため、C を選ぶ。

Pair 1

It is fun to read stories aloud.

物語を声に出して読むことは楽しい。
この It は具体的な何かを指していない。to read stories aloud が真主語であり、楽しさの対象となる内容を表している。

A. This は誤り。This は「これ」という指示を表すが、この文では具体的な物を指す主語を置くのではなく、後ろの to 不定詞を真主語とする形が求められている。

B. There は誤り。There is の形は存在を表す構文で使われるが、ここで必要なのは to 不定詞の内容を後ろに置く形式主語である。

C. It が正しい。It is fun to …の形で、後ろにある to 不定詞の内容について「楽しい」と述べることができる。

D. They は誤り。They は複数の人や物などを指す代名詞であり、形式主語ではない。また、直後の is とも一致しない。

演習問題

主語・目的語・補語の位置

1

次のうち、to 不定詞のまとまりが**主語**として働く文を一つ選べ。

A. To write stories takes practice.

B. My dream is to write stories.

C. I want to write stories.

D. His goal is to write stories.

2

次の英文を、to 不定詞のまとまりが主語になる文として完成させるとき、空所に入る最も適切なものを一つ選べ。

(　) is my goal this year.

A. To speaks English well

B. To speaking English well

C. To spoke English well

D. To speak English well

3

次のうち、to 不定詞のまとまりが**目的語**として働く文を一つ選べ。

A. To play tennis is fun.

B. They want to play tennis.

C. His hobby is to play tennis.

D. My plan is to play tennis.

4

次の英文を、to 不定詞の名詞用法を使って完成させるとき、空所に入る最も適切なものを一つ選べ。

She wants (　) after dinner tonight.

A. to drawing a picture

B. to draws a picture

C. to draw a picture

D. to drew a picture

©ミライコーチング

5

次のうち、to 不定詞のまとまりが**補語**として働く文を一つ選べ。

A. I want to paint pictures.

B. To paint pictures is relaxing.

C. We hope to paint pictures.

D. Her hobby is to paint pictures.

6

次の英文を、to 不定詞のまとまりが補語になる文として完成させるとき、空所に入る最も適切なものを一つ選べ。

My favorite activity is (　) on Sundays.

A. to bake bread

B. to bakes bread

C. to baking bread

D. to baked bread

形式主語 It

7

次の英文を、形式主語 It を使った文として完成させるとき、空所に入る最も適切なものを一つ選べ。

(　) is hard to remember these names.

A. This

B. It

C. There

D. They

8

次のうち、形式主語 It を使った文として正しいものを一つ選べ。

A. It are good to walk every day.

B. It is good to walks every day.

C. It is good to walk every day.

D. It is good to walking every day.

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

正解：A

主語は、文が「何について述べているか」を示す部分である。A では To write stories が「物語を書くこと」という主語になっている。

Pair 1

To write stories takes practice.

物語を書くことには練習が必要だ。

Pair 2

My dream is to write stories.

私の夢は物語を書くことだ。

Pair 3

I want to write stories.

私は物語を書きたい。

Pair 4

His goal is to write stories.

彼の目標は物語を書くことだ。

A. 正しい。To write stories が文頭で主語として働き、takes practice がその主語について述べている。

B. 誤り。主語は My dream である。to write stories は is の後ろにあり、夢の内容を説明する補語である。

C. 誤り。主語は I である。to write stories は want の後ろにあり、何をしたいのかを表す目的語である。

D. 誤り。主語は His goal である。to write stories は is の後ろで、目標の内容を説明する補語である。

2

正解：D

空所に入るまとまりが主語になる。to 不定詞を主語にするには「to＋動詞の原形」のまとまりを置くため、speak を使う D が正しい。

Pair 1

To speak English well is my goal this year.

英語を上手に話すことが今年の私の目標だ。

To speak English well 全体が主語であり、is の後ろの my goal this year が主語の内容を説明している。

A. To speaks English well は誤り。speaks は三人称単数現在形であり、to の後ろに置く原形ではない。

B. To speaking English well は誤り。speaking は ing 形であり、to 不定詞の形になっていない。

C. To spoke English well は誤り。spoke は speak の過去形であり、to の後ろに必要な原形ではない。

D. To speak English well が正しい。speak が原形であり、まとまり全体が文の主語になる。

3

正解：B

目的語は、動詞が表す動作や考えなどの対象・内容を示す部分である。B の to play tennis は、want の後ろで「何をしたいのか」を表している。

Pair 1

To play tennis is fun.

テニスをすることは楽しい。

Pair 2

They want to play tennis.

彼らはテニスをしたい。

Pair 3

His hobby is to play tennis.

彼の趣味はテニスをすることだ。

Pair 4

My plan is to play tennis.

私の計画はテニスをすることだ。

A. 誤り。To play tennis は文頭にあり、is fun が述べる内容の主語になっている。

B. 正しい。to play tennis は want の目的語として働き、何をしたいのかを表している。

C. 誤り。to play tennis は is の後ろにあり、His hobby の内容を説明する補語である。

D. 誤り。to play tennis は is の後ろにあり、My plan の内容を説明する補語である。

4

正解：C

wants の後ろには、何をしたいのかという内容が続く。空所に入る to 不定詞は「to＋動詞の原形」でなければならない。

Pair 1

She wants to draw a picture after dinner tonight.

彼女は今夜、夕食後に絵を描きたいと思っている。

to draw a picture after dinner tonight 全体が wants の目的語である。draw は「描く」という動作を表し、a picture はその対象を表している。

A. to drawing a picture は誤り。drawing は ing 形なので、to 不定詞の形になっていない。

B. to draws a picture は誤り。draws は三人称単数現在形であり、to の後ろに置く原形ではない。

C. to draw a picture が正しい。draw が原形であり、後ろの after dinner tonight と合わせたまとまり全体が wants の目的語になる。

D. to drew a picture は誤り。drew は draw の過去形であり、to の後ろに必要な原形ではない。

5

正解：D

補語は、主語などが表すものの内容や性質を説明する部分である。D では to paint pictures が Her hobby の内容を説明している。

Pair 1

I want to paint pictures.

私は絵を描きたい。

Pair 2

To paint pictures is relaxing.

絵を描くことは気持ちを落ち着かせる。

Pair 3

We hope to paint pictures.

私たちは絵を描けたらと思っている。

Pair 4

Her hobby is to paint pictures.

彼女の趣味は絵を描くことだ。

A. 誤り。to paint pictures は want の後ろにあり、何をしたいのかを表す目的語である。

B. 誤り。To paint pictures は文頭で主語になっており、is relaxing がその内容について述べている。

C. 誤り。to paint pictures は hope の後ろにあり、何を望んでいるのかを表す目的語である。

D. 正しい。to paint pictures は is の後ろで Her hobby の内容を説明しており、補語として働いている。

6

正解：A

My favorite activity が主語、is が be 動詞である。空所には、どのような活動が好きなのかを説明する補語が入る。

to 不定詞を使うため、「to＋動詞の原形」の形になっている A を選ぶ。

Pair 1

My favorite activity is to bake bread on Sundays.

私がいちばん好きな活動は、日曜日にパンを焼くことだ。
to bake bread on Sundays が補語として働き、My favorite activity の内容を表している。is の後ろにあるが、動作の進行を表す形ではない。

A. to bake bread が正しい。bake が原形であり、後ろの on Sundays と合わせて主語の内容を説明する。

B. to bakes bread は誤り。bakes は三人称単数現在形であり、to の後ろに置く原形ではない。

C. to baking bread は誤り。baking は ing 形であり、to 不定詞の形になっていない。

D. to baked bread は誤り。baked は過去形・過去分詞形であり、to の後ろに必要な原形ではない。

7

正解：B

文末の to remember these names は「これらの名前を覚えること」を表す。難しいと述べられているのは、この内容である。

to 不定詞を真主語として後ろに置き、文頭に形式主語 It を置くため、B が正しい。

Pair 1

It is hard to remember these names.

これらの名前を覚えるのは難しい。
A. This は誤り。This は「これ」と具体的な対象を指す代名詞であり、後ろの to 不定詞を真主語とする形式主語ではない。

B. It が正しい。It が形式主語、to remember these names が真主語となり、覚えることが難しいと述べている。

C. There は誤り。There is の存在構文ではなく、後ろの to 不定詞の内容について hard と述べる構文が必要である。

D. They は誤り。They は複数の人や物などを指す代名詞であり、形式主語ではない。また、is との主語・動詞の一致も成立しない。

8

正解：C

形式主語を使う基本的な語順は「It is＋形容詞＋to 不定詞」である。「毎日歩くこと」という内容を後ろに置き、It is good でその内容を評価する。

Pair 1

It is good to walk every day.

毎日歩くことはよいことだ。
この文では、It が形式主語、to walk every day が真主語である。It は特定の物を指すのではなく、後ろに置かれた「毎日歩くこと」という内容を受ける位置にある。

A. It are good to walk every day.は誤り。形式主語 It は単数として扱うため、be 動詞には are ではなく is を使う。

B. It is good to walks every day.は誤り。to の後ろには動詞の原形が必要であり、walks ではなく walk を使う。

C. It is good to walk every day.が正しい。形式主語 It、be 動詞 is、形容詞 good、真主語 to walk every day の関係が正しくできている。

D. It is good to walking every day.は誤り。walking は ing 形であり、この to 不定詞では動詞の原形 walk が必要である。